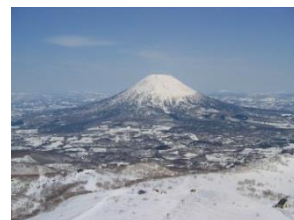


1. 道有林の概要

- 道が所有する森林
(面積:約61万ha 本道森林面積の11%)
- 森林の持つ公益的機能(水源のかん養・国土の保全、生物多様性の保全、二酸化炭素吸収など)の発揮に加え、木材を供給



羊蹄山と豊似湖
(道有林)

2. 計画改定の背景

<多様で健全な森林の育成>

- 利用期を迎える人工林面積の割合が急増
- 人工林の主伐・再造林を進め、多様で健全な森林を育成し、森林資源の循環利用に率先して取り組む必要

<地域への貢献>

- 道が自ら森林を所有し管理運営する強みを活かし、地域の森林づくりの先導的な役割を果たし林業・木材産業等の振興を図ることが必要



3. 計画の主な内容

森林の多面的機能の持続的な発揮

公益的機能の維持増進

- ・道有林全域を公益的機能の発揮を期待する森林に位置付け
- ・水資源の保全や生物多様性に配慮するエリア面積を前計画の1.5倍に拡大 など

木材等生産機能の一層の発揮

- ・積極的な主伐・再造林により、木材の供給量を前計画の1.2倍に増大 など

地域と一体となった森林づくり

地域の森林づくりの促進

- ・一般民有林との共同施業や林業の低コスト化につながる施業方法の実証・普及 など

森林の多様な利用の推進

- ・地域のニーズを踏まえ、森林レクリエーションや観光、木育活動等の場として活用 など

重点的な取組

重点的な取組